平新報

發行日　毎月一回　五日　發行
編輯兼發行人　山野邊庄吉
發行所　福島縣平町二丁目拾　平新報社
廣告料　五號十二字詰一行一回五十錢　場所指定倍增
一部定價　金拾錢
送料　五厘

磐中評議員 加藤丈夫氏の葬送

福島縣貯蓄銀行頭取加藤丈夫氏はかねて病氣療養中去月十七日午前六時半内郷村小島の自宅で遂に長逝した

同氏は平舊藩士の家に生れ、磐中第六回卒業東京錦以心院賢輔丈夫居士斯く繁忙のうちに競馬、花卉栽培、刀劍蒐集、闘犬等趣味も頗る廣く、氏の永眠は各方面から惜まれてゐる

尚氏は磐中同窓會長たる事二期にして現在同會評議員であつた。

弔詞　弔電

○日本赤十字福島支部　代讀　沼田濱之助
□内郷村長　沼田濱之助
□鈴木代議士代柏木　哲
□平税務署長　高屋　俊造
□石城在郷軍人聯合分會　藤田　榮助
□石城郡將校會長　松本　孝平
□平町在郷軍人分會　藤井　一
□福島縣銀行同盟會　白石　嶺美
□福島市銀行組合代表　安田支店長　中島　承行　同
□福島貯蓄總代　阿住　久　同
□水害豫防組合青沼鉾太郎　同
□磐城中學同窓會長　代讀　野崎喜八郎
□磐城講道館有段者會　諸橋久太郎
□松堂院總代々表　代讀　長瀬　量平
□内郷村教員會代表　佐藤　文雄
□内郷信用組合代表　山崎庫太郎
□小島青年分團　中里順作
□小島總代　新妻　文吾　山下喜代治

葬儀は同二十日午後一時自宅出棺平町松堂院に於て營まれたが供物、花輪、放鳥諸橋久太郎氏の會長たる磐城講道館有段者會を同氏等等數知れず參列者多數にて弔詞、弔電は別項の如く、近來稀れな盛葬であつた。

法號は

以心院賢輔丈夫居士

同氏は平舊藩士の家に生れ、磐中第六回卒業東京錦少尉として平郷軍創立に盡し副會長となり大正元年に記專修學校を出、陸軍後備は若冠二十六才で平町會議員に當選し、後内郷村小島の現住所に移り村議たる事四期、其間事業方面へも進出、平劇場、平委托販賣會社を興し、昭和二年六月現城講道館有段者會を同氏等と結成、又同四年二月には自ら磐城剛道會を創して會長となり石城地方劍道界に貢献する處大であつた。

同七年福貯の取締役に就任、同十年七月頭取に推されて現在に及び、傍ら貸自動車を經營して業績をあげ同業の羨望する處となつてゐた

磐城講道館 有段者會長弔辭

貴賤を論ぜず貧富を問はず等しく免るゝことの出來ないのは死であります。併しこれから眞の活動に入らうとする最も大切なる時に於て流爲として世を去る人世の悲哀之に過ぎるものはありまぬ。

君は去る陽春の頃から頭部の疾患に罹つたが格別意に介せず職務に勵精されてゐたが醫師の勧告により我を折つて上京專門醫の診察を受け專心療養に精進せられ一時退院の喜びを共にし蔭ながら再び君の活動を期待して居つたのであります。然るに去る十七日朝遂に君が不歸の客となつたことを聞き全く思ひかけなかつたことで實に驚きもし、人生の果敢なさをしみじみ感するのであります。

顧みるに君は豐富なる知識と卓越せる經驗と優秀なる才能とを以て世に處し行く所可ならざるなく行ふ所驗を見ざるなしといふ事は何人も認めて居る所でありました、果して先年衆望を荷うて福島貯蓄銀行頭取の重任につくや人を見る識と人を容れる雅量とは適材適所の評あらしめ經濟界の重鎮として景仰されたのであります。中學校時代に於ては武道精神の涵養を痛感せられ柔道部を創設して師を聘して後進を指導し心身の鍛練に勉められたのであります。昭和二年同志相謀りて磐城柔道有段者會設立の議起るや率先して組織に盡力せられ五月發會の運びを見幹事長として十年一日の如く斯道普及發展のため盡瘁せられたのであります其他村會議員、所得税調査委員に擧げられ各方面に活動せられて席の温まる暇もなく齡正に五十路、豐富なる經驗と洗煉せられたる想とは益々重きをなし何人も地方のため、はた郷家のため愈君の活動を翹望して居りましたのに遂に幽明界を異にし鬼籍に入るとは實に我々の慨きのみに止まることではありません、地方のため惜しみても餘りあることであります。

我等二百有餘の會員に代り玆に故三段加藤丈夫君の英靈に謹みて哀悼の意を表する次第であります

昭和十二年一月二十日

磐城柔道有段者會長　諸橋久太郎

石城大浦濱 漁業組合 役員改選

昨年十一年十二月二十六日理事及監事の任期滿了に付き改選を行つた結果左の通り當再選した。

大字下仁井田　根本　芳松　同
根本助三郎　同
上仁井田　高木　源助　同
早川　鐵藏　同
細谷　根本權次郎　同
芳賀保三郎　同
以上理事
大字上仁井田　箱崎　熊八　同
下仁井田　鈴木　作重　同
根本圧之助　同
以上監事

磐中同窓動靜

磯上氏榮轉

水戸專賣局平出張所長、磯上佐源太氏（第四回出）は茨城縣湊出張所長に榮轉去月二十四日午前十時四十一分平發にて赴任した。

磐中同窓會記錄

本年の新年懇親會は磐中同窓新年懇親會は恒例に依り一月三日午後六時住吉屋本店に開催され、關内同窓會長の開辭、小檜山校長の挨拶があつて宴に移り頗る盛會で、出席員は左の通りであつた。

小野圓治郎　諸橋久太郎
原　精一　熊谷　保高
酒井喜代正　石川友次郎
吉田　金作　永山　勇吉
齋藤　榮一　酒井　清
近藤　廣記　市井　茂
小檜山久作　酒井國三郎
廣田　德行　佐藤　作平
井上貞次郎　青天目源一郎
岡田朝五郎　吉田　久雄
神谷　辰夫　新妻　熊男
中柴　光泰　江尻伊三郎
山崎忠兵衛　日野　貞利
野崎喜八郎　松本　榮一
山田　馨磨　關内　正一
大橋　秀冬　堀　一郎
橋本芳太郎　山野邊庄吉
木村　守江
以上

玉川壯丁歡送迎會

玉川村本年度入除隊兵は左の如く入營者の多き壯丁率に於て全國でも最多とされ、それが歡送迎會は元日午前十一時より玉川小學校講堂に於て行はれ、宮内村長、遠藤農會長、高萩村議、渡邊分會長等の祝辭あり、國防婦人等多數出席して記念品を贈り意義深きものであつた。

除隊ノ部

大和田　茂
鈴木　定義
小泉　昇
馬目　三之

入營率は全國に稀れ

入營ノ部

近衛歩兵第二聯隊佐藤重信
近衛電信兵第一聯隊大和田兼夫
〃　丹野　林藏
〃　小泉　進
第一飛行第七聯隊齋藤　喜内
歩兵第二十九聯隊小松　正男
歩兵第二十九聯隊柳井　六良
〃　松崎　次幹
〃　箱崎　敬信
〃　鈴木　久光
〃　若松保禮
工兵第二聯隊新妻　光雄
輜重兵第二聯隊大平　保
歩兵第二十九聯隊山野邊文雄
山砲兵第二十五聯隊小泉　林彌
横須賀海兵團丹野　貞雄
輜重兵第二聯隊鈴木　源治
〃　橋本　辰雄
〃　駒木根周平
〃　鈴木　一元

音信交換

▽北海道だより

拜啓　貴臺益々御健勝之段賀奉候　小生無事勤務致し居り候（中略）實は當室蘭市は今年四月より日本製鐵所增設が決定し三年間に人口七萬增加の見込み、今後三年にして一躍十五萬の都市と相成る事になり、當校も從つて今四月、一學級增加と相成ることになりこれが準備等に昨冬より忙殺せられ居りし次第に候何卒不悪御諒察被下度候

小生も渡道十五年目を迎へ幸家族共無事に暮し居り候長男（東北帝大醫科）次男（北大獸醫科）が共に今三月を以て帝大を卒業することになり私的生活としては一大重荷を下すことゝ相成り候然し猶三男が山形高校に居り、四男が中學二年、長女が高女補習科、次女尋六に在學して居るのでまだまだ樂と云ふ譯には參らず從つて年と共に勇を鼓し精勵致す決意に候

若し右消息を何等かの機會に辱知各位に御知らせを願はるれば幸甚に候　敬具

昭和十二年一月十三日　平賀仙三郎

×　×

恭賀新年

世界各國が變態に進まず列國が協和に進む樣切禱致居候

東京市麹町區瑞西公使館　坂本　義孝

△因に氏は磐中第一回卒業で内郷村小島出身である

×　×

寒中御見舞

まだら毛の牛も美くし御料園

審査員膳に上つたうしもほめ

元山毎日新聞社　北市喜多孝

×　×

小山田の家居ましろに雪降れり耕作人の酒に酔ひ居む

佐々木　顯

鹿島村會議員 江尻中氏の葬儀

鹿島村會議員江尻中氏は永らく病氣療養中去る一月十日永眠、十二日葬送執行さる。法名、禪江院禪山林仲居士、當日は平町井上消防組頭夫人、關内縣議、鹿島村議、學校職員、兒童等會葬者多數く盛葬であつた。尙靈前に於ける弔辭は左の通りである。

村長志賀直哉（別項）
校長小泉義浩、村議總代佐藤米治代讀佐原良近、青年團長新妻一郎代讀國井幸文
有志吉田万次郎
弔電　田子健吉、渡邊村高木善枝、高久郵便局長鈴木喜太郎の諸氏

鹿島村長弔詞

維時昭和十二年一月十二日村會議員故江尻中君の靈に告ぐ

君は資性素朴恬淡聰明悧發三才にして神童の稱あり、聰敏なる君の頭腦は長ずるに從ひ圓熟して上下に通じ自在なる舌端は朝野の士をして快を味はしむ君の文藝は中央、地方の紙上に投稿して一般の歡迎を齎し讀者の神經觸覺を躍らしむるものあり。少壯の頃政黨に追從して其論ずる所縱横無盡非凡の腦膜を遺憾なく發揮せられ、其衝動や至れるものあり、而して其の奔走たるや家政を離れて東奔西走日夜の別なく自他の別なき活動の狀態は普通人の能はざる所なり最近農村産業問題等を地方新聞に筆稿して疲弊農村に悴益貢獻せられたるもの敢て少しとせず晩生奮て村會に議席を置き自治政治に參與して刷新に振興に其貢獻や實に大なるものがあり、益々君を敬慕すると共に振興途上の本村をして更生の彼岸を迎らんとするの時君は昨春來突如輕き腦溢血に犯され、以來健康勝れず居を閉ぢて藥餌を攝り只管回復を求められたるも病勢は一進一退呻吟すること實に一年有余日遂に去る十日病は更まり五十有九才を一期として幽明界を異にせらる今や再び君の温容に接するを得ざるとは嗚呼　實に悲痛と云はざるを得ず然りと雖も生者必滅、會者常離は人生必然の常經なり而も君が社會に與へし、社會文化又其他の事蹟は有形無形の間に存在するに於てをや、更に嗣子一君は自彊堅忍一片の眷愛なく勤勞の努力を傾投し一家團欒家産を治めて挽回の曙光を齎し實に前途隆々たるものあり日頃君は過去生活を顧み聊か反省する所ありてか聖地に臨みし感を抱き悟道は更に徹底せるものの如く社會江湖に謝罪の語を功みにし集團和樂の間舟生活を樂まんことを東西に懇請し更に之が開拓のために予に强要する所ありたり、予亦等しく共鳴し之れが實現に協力の力を致さんとする待機中に在り君が生前の念願は今や大体は成熟し其の一部あるのみ、君亦以て瞑するに足らん君は臨終遺言にて本村小學校基本金中に金壹封を寄贈せらる誠に感謝寄特に不堪本日　君を會葬するに當り茲に村會の協贊を經て弔旗並に弔慰金を贈り英靈を長へに慰めんことを予茲に本村を代表して謹んで弔詞を呈す

昭和十二年一月十二日
石城郡鹿島村長
志賀直哉

▲音信交換（二）

啓　我皇國の歴史に一汚點とも言ふべき言論を腕力に訴へた國家非常時の昭和十一年も明日一日にて逝り昭和十二年の新春を迎ふるに當り大平市も實現近しと聞く、新聞人の先覺者としての大兄等が打つて一丸とした地方人の爲め又離鄕したる者の爲め大平市を中心とした政黨政派を離れた一大讀物を望むもの只小生一人のみならむ？（後略）

本鄕區駒込
上富士前町三
黑木房雄

△氏は磐中第十一回卒業生にして鹿島村松久須根出身

× ×

謹賀新年
秋田縣鹿角郡小坂町
小坂鑛山事務所
箱崎清一

× ×

謹賀新年
郡山地方專賣局
箱崎貞吉

マスヤの　一日市
舊正月二日・三日・新二月十二・三日
スバラシイ——三重景品
◇福引景品……御買上高一圓以上一圓毎ニ進呈
空籤無し
◇副景品……一圓以上先着二百名限リ
大角力入場券進呈
◇特別景品……五圓以上ノ御客樣ニハ
特ニ上等景品進呈
◆……商品券ノ御利用ヲ御奬メ致シマス……◆
電一七四番　マスヤ雜貨店
長橋町四〇

舊正月二日（新二月十二日）
景品付
例吉　初大賣出し
疊表大安賣
平四丁目
伊勢屋商店
電話四十五番

內科・小兒科
藤沼醫院
平紺屋町　電話五〇七番

舊正月二日景品付
初大賣出し
今年は十五丁目の店で
皆樣を御待ちして居ります
便利な商品券
御電話下さればすぐ
御届け申上げます
平十五丁目
松本吳服店
電話四五八番

平町田町　電話五一三番
高久病院
院長高久忠
副院長赤羽清
藥局長佐竹菊雄

吸入用酸素
純度99%
度量衡
モノサシ
ハカリ
マス
寒暖計
体温器
秤ノ取緒・錘糸・修覆致シマス
寫眞機
材料一式
關內藥局
電話四〇番

舊闘努力の
久　釜屋の初賣！
舊正月二日午前二時より午後五時まで
混雜中
時間と
御手數
を省く
商品券
金拾圓
金貳拾圓
金參拾圓
金五拾圓
金壹百圓
何卒
御利用下さい
久　釜屋商店
電話九九番